

（十津川農家民宿で日本の原風景に出会う「神納川あったか田舎体験」）

「日本の原風景が残るところで本物の農山村体験を」と、吉野郡十津川村神納川地区では、都市部の小学生に農山村の暮らしを宿泊体験してもらう「子どもプロジェクト」を実施した。

「神納川農山村交流体験協議会」（会長 阪口泰行氏／事務局長 岡田亥早夫氏）の元に参加する民宿・民泊施設に3泊4日で県内都市部の小学校の生徒を受け入れ、農山村の暮らしを体験してもらうもので、今年の夏休みには奈良県内3校が訪れ地区の人々と交流した。うち2校は昨年のリピートで、学校側での評価も上々である。

平成16年、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたが、神納川地区は、高野山から熊野三山に至る「小辺路」ルートの麓に位置する山深い村で、紀伊半島山岳部の神秘と昔ながらの日本の原風景とも言えるものを今に残す地域。子どもたちは、郷土料理である「めはり」（高菜漬けでくるんだおにぎり）作りや、丸太切り、川遊び、小辺路散策などの様々な体験をし、また、民家での宿泊の中でコミュニケーションを深めた。

この事業は、子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などの育成を目指す国の事業「子ども農山漁村交流プロジェクト」のモデル事業として全国40余地域が選定された内の一つで、十津川村役場の呼びかけの元に同地区が名乗りを上げ、昨年からは始まったものである。



四季それぞれに日本の原風景が姿を現す

全国的に農山漁村の過疎化、高齢化が深刻化しているが、長年、林業を主産業としていたここ神納川地区でも例外ではなく、交流人口の増大が課題となっている。そのなか、宿泊客の受け入れは体力的にも少なからず負担となるが、帰り際に感極まってたくさんの子供たちが泣き出す姿を見ると、やっつけて良かったという感慨に疲れも癒されるという。

地区では、事業を継続的なものにすべく、広く夫婦連れや家族連れなどにも対象を広げ通年の宿泊客の獲得を目指し、旅行雑誌とのタイアップに力を入れており、昨秋以降モニターツアーを受け入れ、本格的な通年稼働に向けた取り組みが進んでいる。

近年、グリーン・ツーリズム、スロー・ライフがキーワードとして注目されてきており、都市と山村を結ぶ様々なプロジェクトが進められている。単なるノスタルジーなどではなく、都会では失われつつあるという「コミュニティ」の大切さを感じ起こさせ、さらに、忙しい生活を離れて改めて「ライフスタイル」を問い直す機会としても意義深い。

この吉野地域における先取的な取り組みにより、今後、世界遺産として指定された「日本の原風景」の「神秘性」を感じるツーリズムへの幅広い発展が期待される。（山城 満）

■お問い合わせ・申し込み先

神納川農山村交流体験協議会（十津川村五百瀬49）
TEL:0746-67-0788 URL:<http://attakainaka.com>